

## 10月総評

西躰 かずよし

今月は、新しい表現への試みを感じられる作品が多くあった。また口語ならではの作品も。

きみの髪を  
かわかしながら  
みるゆめの、すべて  
に満ちる すいぎんの影

さいう 愛知県

不安定な印象が作品にはただよう。それはおそらく、その語りが安住を許さないある種の潔癖さ内包しているからだろう。語りの垂直性は、例えば次のような『おりおんの話をやめて／みかづきが／刺さったままの胸／に、ふれてよ』や『神話にはない／しゅうえんを抱いている／熟れたぶらむのような しんぞう』といった作品からもうかがえる。

純粹で絶対的なものへの希求は、関係性のなかでのみ存在しうる僕たちには過ちなのかもしれない。でも、だからこそ心を動かされるのだろう。

カントリーマアムのない味を  
言い合って言い尽くしてから  
渚になった

白野 新潟県

カントリーマアムは実際にあるお菓子で、その無い味を言い合うというのは、ありそうなことだろう。でも、無い味を言い尽くすとすると、それまでに無限ともいえる時間が必要となるに違いない。であるなら、この作品の中心にあるのは、渚になるまでの永遠にも似た時間なのかもしれない。

まだ雨はおおきな森と答えます

立花ばとん 東京都

もうすこしすると雨は森から山へと変わるのだろうか。作品は古い神話を内包しているかのような。俳句のような。詩のような。ジャンルの垣根をとりはらう新たな表現の試みとして興味深い。

煮崩れを流れ星だと思うんだ

松下 誠一 東京都

相容れないものを取り合わせて、少し不思議な世界をつくるというのがこの書き手の持ち味なのかもしれない。キーとなるのは、「少し不思議な」というところ。作品は日常と地続きところに留まるので、取り合わせにおいて少しくらい無理をしても説得力は失われない。

同じ書き手の『会議室 あとは代入するだけの』という作品もおもしろい。

十月の天使につむじ踏まれたわ

中矢 温 愛媛県

僕だって10月の天使につむじを踏まれてみたい。どこまでもやさしいひかりにつつまれていたい。

予備校の星のかけらのよう  
机に置いたままの花丸

マズルカ 山口県

予備校は、「勉強するところ」という前提があるから、どちらかという堅苦しくて窮屈な印象があるのだけれども、『星のかけら』や『花丸』ということばが、そうした印象を180度、転換している。

何かに賭けることのかげがえのなさを思い出させてくれるような作品。

私から虹はじまって素数の そ

玻璃 愛媛県

書き手としては、こんな風にまっすぐに詠えるというのは、ひとつの理想かも知れない。制作過程が分からないので確かではないけれども、この作品は推敲を重ねて作ったというよりも、ふと口について出てきたことばをそのまま残したという印象を受ける。ことばあそび的な要素もあってたのしい。

フトーコーフトーコー

また小鳥来る

日下部 友奏 群馬県

登場人物は不登校なのだろうか。『フトーコーフトーコー』。それは語り手を責める鳥の鳴き声なのだろうか。『また小鳥来る』という一節が切ない。

付け爪で夜と朝とを切り分けて

明るい方をわたしにくれた

汐見りら 東京都

夜と朝を切り分けてくれるということが、やさしさそのもののような気がして。そして明るい方をくれたことが、救いであるような気もして。そんな穏やかな時間さえ、いつまで続くのだろうかと不安になるのは、『付け爪』という言葉に起因するのだろうか。

おそらく、ここに描かれるのは、平穏と不安の溶けあう時間そのものであるに違いない。

秋風になりたい

何よりもすき通りたい

うたた 岡山県

『何よりもすき通りたい』というのは過大な願いかもしれないけれども、切実な願いでもあるだろう。その願いは語り手の、自身は汚れているというさびしい認識に起因するのだら

う。

ガラ空きの電車みたいな人が好き

橋詰 桜京 東京都

ガラ空きの電車みたいな人に惹かれるというのは、どうゆう心境に由るのだろうか。語り手が『ガラ空きの電車』という侘しい情景に共鳴したからなのだろうか。それとも怖いもの見たさのようなものなのだろうか。

けれども、もともと「～みたいな人が好き」といった表明は、リアルな相手など想定していなくて、だからこそ、僕たちは青春みたいに、はかなくも美しいあこがれを想起してしまうのだ。

輝きを増してく君はよろめいて

破片できっともっともっとね

中原紘 山口県

口語のおもしろさが伝わってくる作品。君に対する強い思いが読者にも伝わる。『きっともっともっとね』って。

蝶も蛾も

フランス語ではパピヨンで

あなたはめんどくさいから吉田

城後遥 東京都

投げやりでめんどくさいような感じがこんなにうまく表現できるというのは、口語ならでは。語り手の表情までもが手に取れるかのようである。行替えも、『吉田』という着地の仕方、本当にいい味を出している。

理論武装した抽象画を見たあとに  
パパ活してる友人と会う

純 東京都

理論武装した抽象画を叩きのめすかのような、パパ活している友人。理論武装している抽象画のひ弱さと、友人のたくましさとの対比がおもしろい。簡潔な描写で作品はより説得力を増すものとなった。

紫陽花と名付けるために犬を飼う

吉沢 美香 宮城県

名付けるために犬まで飼うということは、それだけ名付けるという行為が重いものであるからなのだろう。思えば、ものに名を与えるということは、いのちを育むことと地続きの営みといってもいいのかもしれない。